2020年12月13日

NPO法人　四季の森里山研究会

担当：角田・尾崎・武本・井鍋

『紅葉を楽しむ』

「今日は何の日」12月13日

○正月事始め

12月13日は、年神様を迎える準備を始める日。

正月に向けて、いよいよ本格的な準備に取り掛かる時期です。

○紅葉とは、落葉に先立ち葉が色づくことです。

・赤や橙色に色づくことを紅葉（こうよう）、黄色くなることを黄葉（おうよう）、また、褐色になることを褐葉（かつよう）と呼びます。　＊一般的には、紅葉・黄葉・褐葉をまとめて「紅葉（こうよう）」と呼んでいます。

・紅葉の仕組み　～秋になると落葉樹は葉を落とす準備を始め、葉の根元（葉柄）にコルク質の離層と呼ばれる組織を作る。すると、光合成で作られた糖分が枝の方に運ばれず葉に蓄積し、赤い色素（アントシアニン）が生成され鮮やかな赤色になる。＜モミジ類・ウルシ類・ニシキギ・ハナノキ等＞

・黄葉の仕組み　～葉にはもともと緑色の色素（クロロフィル）と黄色い色素（カロチノイド）があり、ふだんは緑色に見えるが、秋が深まるとクロロフィルが先に分解されることで、カロチノイドが残り葉が黄色く見える。　＜カツラ・イチョウ・アキニレ・ムラサキシキブ・アカメガシワ等＞

・褐葉の仕組み　～紅葉と同じ仕組みで、フロバフェン（褐色の色素）が生成される。

＜クヌギ・コナラ・カシワ・ケヤキ等＞

★『落葉アートを作ろう』

・観察会の途中で気に入った落ち葉を拾って、最後にご自分の芸術作品を作りましょう。

○紅葉が美しいと云われるムクロジ科カエデ属の葉の特徴。（日本には26種が自生すると云われている）

・イロハモミジ
・葉は5~7裂
・切れ込みは深い
・鋸歯は粗い
・本州~九州の太平洋側に自生
・公園、寺社、街路樹に

・オオモミジ
・葉は5~7裂（稀に9裂）
・鋸歯は細かい
・ふっくらした印象
・北海道~九州の太平洋側に自生
・公園、寺社に

・ヤマモミジ
・葉は7~9裂
・鋸歯は粗い
・荒々しい印象
・北海道~本州の日本海側に自生
・公園、寺社に

・ハウチワカエデ
・葉は切れ込み浅く10裂以上
・鋸歯は粗い
・大きくて丸い印象
・北海道~本州の山地に自生
・北国では庭や公園に

・コハウチワカエデ
・葉は切れ込み浅く10裂以上
・ハウチワカエデより小型
・本州~九州の山地に自生
・庭や公園に

・イタヤカエデ
・葉は5~7裂
・鋸歯はほとんど無い
・北海道~九州の山地に自生
・樹高が日本で最も高くなる

・ウリハダカエデ
・葉は3~5裂
・鋸歯は不揃い
・本州~九州の山地に自生
・幹肌の緑の模様がマクワウリに似る

・トウカエデ
・葉は3裂
・鋸歯はほとんど無い
・中国原産で、各地で街路樹
公園、庭木に

★次回の自然観察会は1月10日（日）テーマ『動植物の冬越し』です。是非、ご参加ください。